雜　　録

ヴユスト教授誕辰祝賀　同教授は本會名譽會員なるが去る 7 月 8 日第 70 回の誕辰祝賀式擧行に際し、日本に於ける友人及舊門下生の有志相謀り、美麗なる銀製煙入一式を井上子爵の手を經て同教授に贈呈し老教授に對し遙に祝賀の意を表したり。

東京帝國大學工學部鑛山及冶金學教室の移轉　同大學工學部鑛山及冶金學教室は豫て新築中の處此度全部竣工し 9 月上旬移轉せり。

ソヴイエツト聯盟に於ける新製鋼工場　(The Blast Furnace and Steel Plant, July. 1930, p. 1135) ソヴイエツト聯盟に於て今回米國シカゴ市 Freyn Engineering Co. に依賴し生産 100 萬屯の製鋼工場を建設することになり目下敷地の準備中である。工場の位置はトムスク市の南約 220 哩トム河に沿ひたる地で工場設備は 800 屯鎔鑛爐 4 基、125 噸平爐 12 基、に分塊壓延機、小鋼片、平鋼、軌條鋼、構造材料用壓延機等であり尙動力工場は 86,000K. W. である。(鹽澤)

タタ製鐵會社のターボブロアー　(The Blast Furnace and Steel Plant, July, 1930, p. 1125) 印度タタ製鐵會社よりスイス Escher Wyss and Co. へ注文せる新鎔鑛爐用ターボブローアは 1 分間に 130,000 立方呎、風壓 27 封度の風を出すを得、其運轉用の蒸氣タービンは 13,700 馬力であり此種の用途として世界最大のターボブローアである、注文臺數は 2 臺で各 1 臺にて 1,600 噸鎔鑛爐を吹くことが出來る。(鹽澤)

新アルミニウム合金　(The Metal Industry (A) July 1930, p. 352) 英國に於て特許を得し R. R. 50 は Cu、0·5—5·0 %; Ni, 0·2—1·2 %; Mg, 0·1—5·0 %, Fe, 0·6—1·5 %; Si, 0·2—5·0 %; Ti, 0·5 %以下なる諸元素を含有しアルパツクス同樣の性質を有し加之に 175°C で熱處理時効を施せるものは大なる抗張力と靱性を有すといふ。

シルベロイド　(Silveroid) (The Metal Industry (A) July, 1930, p. 352) 本合金は Cu, 54%; Ni 45 %; Mn, 1 %よりなる銀白色を呈し容易に光澤を失はずニツケル鍍金容器の 2 倍半の耐久力を有すといふ。(鹽澤)

支那に於ける鑛石需給狀況　(昭和 5 年 4 月 10 日附在上海横竹商務參事官報告)

○滿俺鑛石　産地と出鑛數量　支那の滿俺鑛石の主産地は湖南省鶴嶺、江西省樂平、廣東省防城にして江蘇省海洲にも其産ありと聞くも、當地に出廻りたることなきものゝ如し。

而して生産高は統計の徵すべきものなく詳かならざる處、當業者の談を綜合するに本年出鑛豫想は鶴嶺 3—4 萬瓲 (實際は 3 萬瓲) 樂平 2—3 萬瓲 (實際は 2 萬瓲)、防城 1—2 萬瓲 (實際は 1 萬瓲) なるものゝ如く、上記稅關原産地移出額統計に從ふも支那に於ける生産額は大體 5—6 萬瓲と見

て大過なかるべし。

次に本品は大部分海外に輸出せられ、支那にて消費せらるゝもの殆ど無きものゝ如し。

最近3箇年間滿俺鑛原產地移輸出統計（單位數量擔、價格海關兩）

地名	1926年 數量	1926年 價格	1927年 數量	1927年 價格	1928年 數量	1928年 價格
長沙	485,285	195,866	126,185	50,952	—	—
漢口	—	—	5,762	2,325	15,960	8,415
九江	193,242	80,520	166,404	69,335	354,564	139,373
廣東	18,598	16,864	30,744	29,013	4	28
梧州	22,452	16,791	190,552	135,199	325,851	229,327
北海	48,686	23,796	160,440	76,400	52,922	25,901
其他	170	70	218	171	8	8
計	768,423	333,907	680,305	363,395	749,309	403,052

買入先及賣込先地名、從來本品の買入先は支商裕蛙公司が湖南省鶴嶺鑛山を所有したる關係上、同鑛山產品は同公司より買入たりしも國民政府樹立以來該鑛權を失ひ現在は入札に因り居るものゝ如し。

又本品の賣込先は殆ど日本にして就中八幡製鐵所が 80 %を占め、其他は伏木の日本綱管及時には大連大阪東京等にも積出され居れり。

最近3箇年間の輸出統計

國別	1926年 數量	1926年 價格	1927年 數量	1927年 價格	1928年 數量	1928年 價格
香港	17,435	13,522	190,083	134,670	326,284	230,102
日本	684,633	288,882	576,308	262,422	390,188	159,913
其他	2	2	—	—	8	4
合計	702,070	302,406	766,391	397,091	716,480	398,018

大體の價格、取引數量、商習慣、價格は滿俺含有量 43 %前後のもの日本沖渡瓩當 30 圓見當にして商習慣としては契約と同時に 80 %の手付を納入し居れり。

取引商店　三井洋行　上海四川路 49 等、左同　漢口第3特別區太平街、大倉洋行　上海九江路1號、同上　漢口日粗界西小路

（二酸化滿俺　亞鉛鑛省略）

○タングステン鑛　需給狀態、支那の本品の產地は江西、湖南、廣東省境にして其產品は九江或は長沙より搬出せらるゝ場合と、廣東より香港に出さるゝ場合の三あるも、上海に出廻るものは概ね九江乃至は長沙より積出されつゝあり。而して其生產數量は詳ならざるも支那稅關統計に從へば1箇年約 10 萬擔乃至 12 萬擔餘にして、支那にて消費せるゝもの殆どなく、

最近3箇年間支那タングステン原產地移輸出統計
（單位數量擔、價格海關兩）

國別	1926年 數量	1926年 價格	1927年 數量	1927年 價格	1928年 數量	1928年 價格
長沙	7,2[illegible]0	103,790	3,276	43,173	2,667	38,080
九江	100,826	1,218,767	78,976	1,011,288	85,417	1,145,447
廣東	12,056	211,684	13,489	236,171	21,853	391,315
其他	1,745	19,118	659	7,211	8,675	73,714
合計	121,407	1,553,359	96,300	1,297,843	118,612	1,648,556

最近3箇年間支量タングステン鑛海外輸出統計
（單位數量擔、價格海關兩）

國別	1926年 數量	1926年 價格	1927年 數量	1927年 價格	1928年 數量	1928年 價格
香港	9,461	139,996	26,171	420,666	30,[illegible]26	461,323
英國	20,257	292,029	5,257	76,542	18,651	275,615
獨逸	22,778	322,374	7,746	112,709	7,140	105,244
白國	2,140	30,174	5,727	83,385	8,963	132,115
佛國	32,6[illegible]3	457,550	24,1[illegible]3	350,653	25,771	378,005
日本	868	14,381	118	1,298	—	—
米國	28,443	401,152	12,818	186,630	30,505	449,642
其他	840	11,857	1,260	18,346	585	8,622
合計	117,403	1,669,513	83,270	1,250,229	121,741	1,810,567

總て日米竝歐洲諸國に輸出せられつゝあり、原產地移輸出統計前表の如し。

買入先及賣込先地名　本品も如上他の鑛產物と同じく支那人より產地或は輸出港に於て買入輸出するものにして其輸出先等前の如し。

更に上海港よりの海外輸出下の如し。

最近3箇年間上海港タングステン輸出統計（單位同前）

國別	1926年 數量	1926年 價格	1927年 數量	1927年 價格	1928年 數量	1928年 價格
香港	6,639	93,610	12,459	181,403	840	12,381
英國	15,7[illegible]5	231,741	5,257	76,542	18,4[illegible]3	272,927
獨逸	19,2[illegible]7	271,242	7,662	111,559	7,140	105,244
白國	2,140	30,174	5,727	83,385	8,963	132,115
佛國	24,232	341,713	22,318	324,950	25,603	375,305
米國	28,023	395,114	12,818	186,630	30,505	449,643
其他	843	11,844	1,260	18,316	585	8,622
計	96,839	1,365,438	67,501	982,815	92,119	1,356,237

大體の價格、取引數量、商習慣　價格は變動多く一定せず高きは 7—8 萬弗安きも 4—5 百萬弗にして相場昇騰し政情安定せば一時に出廻るものと思考さる。

取引商店次の如し。三井洋行　上海四川路 49 號

結論　昭和 2 年南京政府樹立建設廳が設置せられて以來各省に於ける鑛山は官有、若しくは之が監督下に置かれ、殊に金屬類の鑛山は何れも沒收せられ、其採掘權は勿論販賣權迄も該廳の所有に歸し之が買付に際しては一旦支那人が入札したるものを又買するの關係となれり

然る處外商は何れも競つて之が買付に從事するを以て勢ひ產地高を誘致し、支那商は勿論支那官憲に漁夫の利を得らるゝの現狀にあり、故に亞鉛鑛及タングステン鑛の如く世界各國に輸出せらるゝものは兎に角もして、滿俺の如き仕向地が日本のみなるものは產地に於ける無碍の競爭を避けさしむる爲め或特定會社に委託買付を爲さしむるか又は指定したる方が本邦の爲有利なりと思考す。(海外經濟事情 3. 26.)

印度に於ける鑛石需給狀況竝取引店　（昭和 5 年 6 月 2 日附在カルカツタ大野總領事館事務代理報告）滿俺鑛石需給狀況　印度のマンガン鑛石の發掘は 1892 年に始まり、其後各地に同鑛山の發見せらるゝに及で漸次其產額を增加し、1907 年には 902,290 噸の產出レコードを作り、世界有數の同鑛石產出國となるに至れり。尙最近の統計にては 1926 年度に於て 1,014,9[illegible]8 噸(價額 2,5[illegible]0,357 磅）の產出あり 1927 年には更に增加し 1,129,353 噸（價額 2,844,[illegible]37 磅）の產出を見たり。而して其主產地として知らるゝ鑛山は中央州內に在るもの多し、尙近年ビハルオリツサ特にケオンジヤルステート及シングバム地方等に產出增加の傾向ありとのことなるが、マドラス省はビザガパタン及ベエラリー地方の產出減じサンダアル・ステートよりの產出增加し、マイソールステートはチタルドラツグ及タンカル地方の產出減少したるもシモンガが地方に增產を見るに至れりと云ふ。

マンガン鑛石 1927 年の輸出は其前年度より約 23 萬噸の增加をなせるが、1922 年最高輸出額たる 862,777 噸に比し尙 2 萬噸の減少なりしと云ふ、而して最近 1928—29 年度の輸出は 68 萬 938 噸價額約 1,968 萬留比に減退せりと云ふ。

尙印度の需要先の主なるものはベンゴール製鐵會社、タタ鐵鋼會社、印度鐵鋼會社の三大會社なるが、上3社の 1927 年度マンガン鑛石消費量は 39,065 噸にして 1928 年度には 69,872 噸となれり。

滿俺買入先及賣込先地名　バラカツト、ナグプール、サンダルステート、バアンダラ（其の中サンダルステートのマドラス省內を除きては何れも中央州に屬す）の4地方は、印度の滿俺鑛石の4大產地と見るべきものなるが此他孟買、ビハル・オリツサマイソール等にも其產出あるは勿論にして、此等諸地方所在鑛山會社は何れも孟買、カルカツタ、ビザガパタン、モルムガオ等同品主要輸出港に其代理店、特約店等を有し同店の手を經て同地より英本國、白耳義、佛蘭西、和蘭、獨逸等へ輸出し居れり。外國向輸出數量の各仕向國別次の如し。（1928—29 年度）

仕向國	英領地（本國を含む）	諸威	瑞典	獨逸	和蘭	白耳義	佛蘭西	伊太利	米國	合計
數量（單位噸）	171,840	567	800	20,445	8,001	167,885	230,175	8,975	72,250	680,938
價額（單位留比）	4,956,027	17,018	8,000	521,646	240,025	4,722,047	6,702,195	297,387	2,155,750	19,680,095

滿俺價格、取引數量、商習慣、價格、取引數量等に關しては同鑛石當地主要輸出商たる次記3社に照會したる處、中央州俺鑛鑛石會社の代理店たる James Finlay & Co. にはて同鑛石を分ち (1) Oriental Mixture (2) Bawantheri Manganese Ore (3) Dongri "run of mine" Manganese Ore の3種となし居れるが、(1)は滿俺約 50·5 % を含み、(2) は 51 乃至 51·5 % を含有し、(3)は 47 乃至 48 %を含有すと稱し居れり。但し以上含有量は責任を以て保證し得ずとの事なり、尙以上に對する價格は (1) カルカツタ F·O·B 1 噸に付 26 留比、(3) は 24 留比 8 安にして (2) は目下の處相場不明。取引數量は 1 回大體に於て 500 噸以上 1 萬噸位迄との事なり。

又 Bird & Co. にては同店取扱の一等品は滿俺 48 %以上を含有すと云ひ、其相場カルカツタ F·O·B 26 留比、二等品（38 乃至 42 %含有）17 留比にして其取引數量は月極め契約にて一等品每月約 375 噸、二等品 2,500 噸なるも以上は大體の標準にて以上の數量以外にても契約に應ずる由なり。

The Indian Manganese Co., Ltd. にては歐洲市場の相場を標準とし目下一等品 F·O·B 相場1ユニツトに付 1 志 3 片、二等品 1 ユニツトに付 9 片乃至 10 片にして取引數量は1回 100 噸以上 8,000 噸位迄なりと。

商習慣に就ては各社共其取扱品の分類を異し居れるも、大體に於て市場は 50%以上の滿俺を含むものを一等品とし居るものゝ如く、尙其取引に當りては邦貨にて何港 F·O·B 何程となすものと、歐洲市場の相場を標準とし1ユニツト何志何片となすものとの2種あるも前者に依るもの多し。

又其取引は豫め賣買當事者間に於て一定期間の契約に依り繼續的に積出をなすものと、一時註文に依るものとの2種あるも、一時註文には當港の港灣設備、入港船舶等の特種事情に由り 8,000 噸以上の積出困難なる模樣にて、大體一船舶にて良ゝ 2,000 噸以上を積込をなし得るもの極めて稀なりと云ふ。

尙代金支拂方法は大體に於て、キヤツシペイメントを條件とするもの多く、又90%をキヤツシペイ

メントにて、殘額 10 %はポートコンミツシヨナーの重量測定の上買付人が積出證書類受領後支拂ふことゝなすものとあり。

滿俺取引商店名下の如し。

The Indian Manganese Co., Ltd., Bird & Co., Chartered Bank Building, 6 & 7, Clive St., Calcutta. James Finlay & Co., Ltd., 1, Clive St., S. D. Nahapiet, Post Box No. 2397,

タングステン(ウルフラム) タングステンの產出は緬甸のタヴオイ及メルグイの2地方其主產地として知られ、緬甸は一時世界產出額の大約1/3に當る數量を產出し、一躍世界一の產出國となれることありしも其後は逐年減產の傾向を辿り、1927年には1,160噸なりしもの1928年には622噸となるに至れり。尙同鑛石の輸出は大戰前迄は其大部分之を獨逸向輸出し來れるが、戰時之を中止し主として英本國向輸出することゝなれり、而して1928—29年度のウルフラム鑛石輸出額は英本國向416噸にして獨逸向310噸、白耳義80噸、米國70噸、計876噸なりき。而して以上は悉く緬甸より輸出せられしものにして、印度內の需要少く其大部分は外國向け輸出せられ居れり。此等主產地たるメルグイ及タヴオイ地方の鑛山の殆ど大部分は其代理店を蘭貢地方に有し其手を經て夫々外國向輸出し居れり、尙ウルフラム鑛山經營主及代理店名を記せば次の如し。

ウルフラム鑛山經營主名下の如し。

Amherst Tin Mining Co., 6, Phayre St., Rangoon. Mirza A. Hossain, 8, Strand Road, Moulmain. Ahmed, E., Mergui, Beadon, C. J., & Doupe, J., Mergui, Burma Development Syndicate, Ltd., c/o Managing Agents, Mergni, Gyi, U. E., Zedan Quarter, Mergui, Khan Gulmahammad, Kanphung Quarter, Mergui, Burma. Ma Lein & Ma Kyin May, Victoria Point, Mergui. On, Maung pan, Palan P. O., Mergui, Burma.

ウルフラム鑛輸出商品下の如し。

Volkart Brothes, Tellicherry, South India., J. A. Begbie & Co., Ltd., Post Box 57, Elleaman's Arracan Rice & Trading Co., Ltd., Post box 47, Marshall, Cotter ell & Co., Ltd., Post box 231, Finlay, Fleming & Co., Ltd., Merchant St., William Jacks & Co., Post box 83, Foucar & Co., Ltd., Post box 148, Gillanders, Arbushnot & Co., Post box 168, Rangoon.

亞鉛、印度の亞鉛生產地は緬甸北部シヤンステート地方にして、緬甸コーポレーシヨン・リミツテツドは印度亞鉛產出量の大部分を代表し居れる處、1928年同會社の生產せる亞鉛の產出高は1927年度の58,286噸、價額7,319,468留比より、64,122噸價額7,496,118留比となれり。而して1928—29年中の輸出額は總計1,535,568所(1噸は20所)價額7,733,969留比なりき。而して其內大部分1,504,970所は白耳義向輸出せられたり、尙亞鉛の輸入額は1928—29年度171,184所にして價額326,986留比なり。

亞鉛鑛輸出商名下の如し。

Burma Corporation Ltd., Post box 801, Rangoon., Burmr Minerals & Metals Co., Ltd., Post box 116,（海外經濟事情 3—29）

上海に於ける石炭近情　（昭和 5 年 6 月 14 日附在上海横竹商務參事官報告）石炭移輸入狀況　最近上海の石炭移輸入は支那炭は時局に禍せられ、中興及山東炭の出廻は激減したりと雖開平、撫順其他雜炭の出廻順調にして 1 月以降の累計は 89,310 噸と昨年に比し 68,510 噸を增加し、又 1 昨年に較べ 17,110 噸を增加したが之に反し本邦炭は年初以來爲替引續きの暴騰に支那炭の壓迫もあり、契約炭の外は殆ど入らず、之を昨年に比すれば 71,200 噸、更に一昨年に較べると 109,300 噸の減少を示し居れり。即ち下の通り。

最近 4 箇月間上海港各國石炭移輸入統計　（單位噸）

炭別	昭和4年1月	〃5年1月	〃4年2月	〃5年2月	〃4年3月	〃5年3月	〃4年4月	〃5年4月	本年1月以降累計
三池炭	21,600	30,700	20,100	11,100	23,400	22,300	31,100	27,900	92,000
筑豐炭	45,700	21,400	26,600	31,200	28,700	22,300	33,200	15,700	90,600
肥前炭	25,800	20,700	26,000	30,300	32,300	31,700	41,300	15,400	98,100
臺灣炭	—	—	—	—	—	—	—	—	—
北海道炭	2,300	—	—	—	6,600	—	—	7,400	7,400
日本雜炭	—	—	—	6,400	—	—	—	—	6,400
日本炭計	96,400	72,800	72,700	79,000	91,000	76,300	105,600	66,400	294,500
撫順炭	45,600	86,000	39,000	76,900	67,100	73,100	60,700	46,500	282,500
山東炭	68,300	13,000	17,900	2,900	29,900	16,400	20,800	13,600	45,900
開平炭	76,500	128,600	67,100	94,500	93,700	111,100	110,900	101,200	435,400
山西炭	—	—	—	—	—	1,000	—	7,900	8,900
北票炭	—	—	—	—	—	—	3,500	—	3,500
支那雜炭	—	3,500	—	—	—	—	—	—	3,500
海防無煙	35,800	9,500	21,600	3,700	11,100	13,000	26,700	4,700	30,900
柳江其他支那無煙	14,800	29,100	—	33,250	10,600	11,200	10,600	26,000	99,550
雜コークス	1,500	1,600	1,600	960	1,600	6.000	1,100	6,000	14,560
合計	338,900	344,100	219,900	291,210	305,000	308,100	339,900	272,300	1,215,710

貯炭高　最近當地の貯炭は年初以來の酷寒に賣行良好なりしに、爲替高に依る邦炭の輸入減及時局竝貨車配給不圓滑に依る山東炭竝中興炭出廻減等に、4 月末現在の夫は 361,000 噸と前月に比し 25,300 噸、更に昨年同期に比較し 111,000 噸の激減を示した。各炭の在高下の如し。

最近 4 箇月間上海港貯炭比較統計　（單位噸）

炭種別	昭和 4 年1月末現在	昭和 5 年1月末現在	昭和 4 年2月末現在	昭和 5 年2月末現在	昭和 4 年3月末現在	昭和 5 年3月末現在	昭和 4 年4月末現在	昭和 5 年4月末現在
日本炭	201,600	143,100	187,300	141,100	182,800	150,000	182,000	135,200
臺灣炭	—	—	—	—	—	—	—	—
撫順炭	48,700	32,300	42,200	45,400	44,800	39,000	43.500	36,900
山東炭	89,900	21,600	93,800	15,600	81,700	9,500	74,700	6,700
開平炭	66,800	93,600	75,900	90,200	65,600	85,100	86,800	80,900
北票炭	7,300	6,200	5,400	3,800	3,500	3,200	2,500	2,000
山西炭	—	400	—	200	—	—	—	3,900
支那雜炭	29,200	13,200	23.800	11,800	16,300	11,400	17,000	7,200
海防無煙炭	48,200	15,700	47,900	10,400	40,400	13,400	51,400	12,200
支那無煙炭	29,800	72,400	16,600	82,500	18,600	72,500	4,500	75,000
コークス其他	3,700	4,600	6,200	5,200	6,500	4,300	9,600	3,100
計	521,200	403,100	499,100	406,200	460,200	388,400	472,000	363,100

市況　當地支那炭の移入は前掲移輸入統計の示せるが如く引續き順調ながら、只邦炭のみは爲替の

3 割方暴騰に對比し市價は追從せず、1 兩乃至 1 兩 5 匁下放れ、加ふるに長興、大洞等支那割安炭に販路を蠶食せられて漸次取引減少、全く四面楚歌に閑散商狀を繰返し、相場の如きも崎戸洗粉 10 兩 5 匁所に低迷、現在の相場よりすれば 11、2 兩にても實需取引としては不可能なる現狀にあり、之に比し支那炭は爲替高も外目に開平 1 號 8 兩 5 匁、同 2 號粉 7 兩 4 匁、撫順粉炭 10 兩 5 匁を唱へられ、此分で推移すれば當地電燈會社下半期契約炭 27 萬噸も相當安値にて契約せらるゝものゝ如く、邦炭の將來は悲觀せられ居れり。

爲替の暴騰に惠まれ支那炭活躍　一昨年來の日貨排斥に惠まれ邦炭の販路に侵食しつゝあつた支那炭は最近爲替暴騰に益々其速度を迅速にした。其一は浙江省長興炭にして、本炭坑は舊浙江督軍盧永祥失脚以來坑區に水浸入し、其後國民政府成立するや同炭坑沒收等の噂もあり行惱み居たるが、4 月頃より採掘を開始したるものゝ如く、其頃より 1 日 300 噸見當の出荷ありて之が奥地各工場其他に供給せられ、本邦塊炭の需要地も殆ど絶滅せられ、輸入も近來殆ど杜絶の姿となれり、相場は蘇州渡 8 弗 50 仙、上海渡 10 弗見當なるも奥地の消費に間に合はざる位にて未だ上海に出廻りしことなし、本炭坑の坑區面積は 71 方支里にして、其後土民の亂掘したるもの 4 割と見るも尙 42 支里あり。炭層は厚きは 4 尺乃至 6 尺、薄きも 2 尺にして其埋藏量は 1 平方支里 72 萬噸とするも合計 3,024 萬噸となり每日 1,000 噸を採掘するとしても 80 餘年を要すると云はる。品質は長興炭鑛技師發表分析表に從へば次の如し。

水分	0·52%
揮發物	32·68%
固定炭素	44·20%
灰分	22·60%
計	100·00%
硫黃	0·12%
熱量	13 270%

他は山西省太洞炭の出廻にして本炭は優良炭にして機械燃料として有望視せられ居る處、運賃の關係にて今の處塊炭、切込炭に限定され 1 箇月 5,000 噸の出廻りあるに過ぎざるが、時局にして安定、輸送圓滑となれば上記の外に粉炭の出荷もあるものと思はる搗てゝ加へて現在天津港にて積取られ居る處同地には 1,500 噸乃至 2,000 噸內外の船舶しか溯江出來ず、爲に塘沽に石炭の貯藏場を設置せんとの計畫あり、之にして實現せらるれば支那沿岸への積出益々便利となり、當地方への出廻は潤澤となるものと觀られ居れり。本炭は又家庭用炭としても支那人間に輕煙と稱せられ煙少く歡迎せらる。目下上海の市價は塊炭 14 兩、切込 12 兩見當にして邦炭に比し 2 兩乃至 2 兩 5 匁安であり、又品質等よりは 3、4 兩の下値にあり。

因に大洞礦山は山西省の東北部長城の北に在りて北平の綏遠線鐵道竝北平の天津線鐵道に供給せらるゝ黑炭は專ら此處の產出に係るものなり。此礦山の採炭が比較的大規模に行はるゝに至りしは最近の事にして、其炭質優良にしてカロリー 24,000B·T·U にして開平炭の 10,000B·T·U に比すれば甚だ佳良なり。而して同地炭鑛支那人技師の談に從へば、地質學者の說に依る迄もなく大洞炭は同省中他の何れの炭山よりも品質良く、又今日の採炭を續くるも今後 50 年位は壽命ありと云ふ。而して支那地質學會の報告に依れば、大洞地方の出炭量は 1922 年旣に 16 萬噸を出し居れるが引續きの騷亂にて北平の綏遠線の運轉圓滑を缺き、1925 年には 79,000 噸に激減したるが其後漸次回復して 1928

年には 50 萬噸に上り居るならんと、今地質學會發表の出炭量次の如し。

1919 年	1920 年	1921 年	1922 年	1923 年	1924 年	1925 年	1928 年
28.475噸	139,669	67,465	166,690	238,245	218,533	79,742	400.000(?)

大洞炭の北平、天律、上海への移出は漸く有望視され來り、時局にして安定貨車の運轉圓滑ともならば相當移出あるものと觀らる。支那地質學會が發表せる大洞炭の分析表次の如し。

水分 4·50%　揮發性分 30·99%　炭素 58·00%　灰分 6·20%　硫黄 ?

又上海化學分析發表に從へば次の如し。

水分 3·5%　揮發分 32·1%　固定炭素 57·1%　灰分 7·3%　計 100·0%　硫黄分 0·47

要するに國家提唱にて唯さへ自國產を愛用せんとする折柄、爲替の暴騰は益ゝ好機會を與へ今後本邦炭の輸入は爲替關係の極度に良好とならざる限り減少するものと思はる。(上谷通譯生調査)(海外經濟事情 3. 29)

歐洲大陸鐵鋼業の現狀に關する英國視察員報告概要　(昭和 5 年 7 月 11 日附在ロンドン松山商務參事官報告)　英國現政府の設置に係る經濟諮問會 (Economic Advisory Council) は同國鐵鋼業不振の現狀に鑑み、之が對策講究に資する爲(曩に當業に關係ある各方面の代表者を視察員に任命し、歐大陸鐵鋼業の現狀を調査せしめたり。視察員一行の氏名及其代表資格次の如し。

Mr. John A. Gregorson (British Iron and Steel Trades Employers'Association の General Secretory にして National Federation of Iron and Steel Manufacturers を代表す)

Mr. R. Dennison (英國鐵鋼業主要勞働組合たる Iron and Steel Confederation の Assistant General Secretary)

Mr. E. C. Ramsbottom (Director of Statistics, Ministry of Labour)

Mr. F. S. Flint (Overseas Section, Statistics Division, Ministry of Labour)

以上の視察員の一行は本年 1 月 20 日倫敦出發佛國、白耳義、獨逸、ルクセンブルヒ及チェコ、スロバキアに於ける斯業の現狀を視察 2 月 14 日倫敦に歸著最近其報告書公表せられたり。

右其報告は主として歐洲各國に於ける鐵鋼業の概況を叙述し、特に勞働方面の調査委曲なるも、斯業經營の實際狀況に關しては其記述殆ど見るべきものなし。

されど尙各國當業の狀勢を通觀する上に於て好個の參考資料たるべきものあるを以て、其中の 2、3 要項に關し其要旨を譯出すれば次の如し。

(1) 歐洲各國に於ける斯業の情勢　佛國は大戰中其主要鑛業地方が戰爭の巷となれるが爲、銑鐵製造能力の 64 %、製鋼能力の 62 %は之れが爲作業不能に陷ゐれるのみならず、其鎔鑛爐總數 170 の內 85 は獨逸の手中に落ち、Martin Furnace 164 中 48 又 Bessemer Converter 100 中 53 も亦同樣獨逸の占取する所となれり。されば佛國は當時戰爭地域以外の地方に於ける斯業能力の發展に全力を傾注しつゝありしが、戰爭終熄と共に破壞工場の再興修理に努め、其設備機械は最新式を採用せる

が爲、同國の生産能力は著しき增進を示すに至れり。殊にベルサイユ條約の結果アルザス・ローレンが佛國の手中に復歸せるにより、其能力は一層增大を來せり。同地方 1913 年の生産額は銑鐵 3,870,000瓲、鋼鐵 2,286,000瓲、鐵鑛 21,000,000 瓲なりしを以て、此等工場を收容せる佛國製鋼業は其能力と地域と共に顯著なる擴大發展を示すに至れり。

尙戰後佛國政府が戰害賠償として莫大なる金額を當業者に交付したることゝ戰後佛貨下落の好影響とは、同國斯業をして外國に對する競爭を有利ならしめたる所尠なからざるものありと認めらる。

戰前及戰後の生産額比較次の如し。(單位 1,000 瓲)

	1913年(イ)	1922 年	1923 年	1924 年	1925 年	1926 年	1927 年	1928 年	1929 年
銑　鐵	5,207·3	5,228·6	5,431·8	7,693·0	8,494·1	9,431·6	9,273·1	9,980·9	10,488·8
塊鋼及鑄鋼	4,686·9	4,534·5	5,109·5	6,900·3	7,446 5	8,430·0	8,306·3	9,499·5	9,669·3
輸出數量	629·7	1,967·5	2,217·3	2,817·8	4,009.1(ロ)	4,191·0	5,645·9	5,039·9	4,278·9

備考(イ)は戰前の領土 (ロ) 1925 年 1 月よりはザールを含む)

白耳義　1913 年に於ける白國銑鐵の産額は 2,485,000 瓲、塊鋼及鑄鋼の産額は 2,467,000 瓲なりしが、戰時中獨軍占領の結果、其主要工場の多くは解體せられ・其機械器具類は獨逸へ移送せられたり。されば戰爭終熄當時同國斯業は殆ど生産不能の狀態に在りしが、戰後國庫補助と新資本發行により、最新式の設備により再び作業を開始せり。爾來其發展頗る目覺ましきものあり。1919 年に於ける其生産額は僅に銑鐵 250,600 瓲、鋼鐵 333,600 瓲なりしもの、10 年後の 1929 年に於ては銑鐵 4,097,000 瓲、鋼鐵 4,134,000 瓲に著增するに至れり。

戰前及戰後の生産比較次の如し。(單位 1,000 瓲)

	1913 年	1922 年	1923 年	1924 年	1925 年	1926 年	1927 年	1928 年	1929 年
銑　鐵	2.484·7	1,613·2	2,148·0	2,843·9	2,542·5	3,368·3	3,709·1	3,905·3	4,096·8
塊鋼及鑄鋼	2,466·6	1,565·1	2,296·9	2,875·0	2,548·5	3,338·7	3,680·2	3,934·5	4,134·3
輸出數量	1,575·5	1,743.1(イ)	2,534·1	2,943·0	3,203·9	3,765·5	4,672·2	4,549·2	4,498·2

備考(イ) 1922 年 5 月よりはルクセンブルヒを含む。

ルクセンブルヒ　戰前當國の斯業は獨逸の資金供給により經營せられつゝありし關係より、戰時中獨逸は當國に於ける各種鐵鋼工場を利用し、其能力の許す限り生産を續けつゝありしを以て、佛白兩國に於けるが如き戰禍を蒙むることなく良好に維持せられたるが、戰爭終熄と共に全然獨逸の手を離れ今やルクセンブルヒ佛國及白國の 3 箇國管理の下に在り、白耳義關稅同盟に參加し居れり。

其工場及設備機械等は戰爭以來新設せられたるもの多く其改造は今尙繼續施行中のものあり、將來益々其産額を增加すべき形勢なり。

戰前及戰後の生産額比較次の如し、(單位瓲 1,000 瓲)

	1913 年	1922 年	1923 年	1924 年	1925 年	1926 年	1927 年	1928 年	1929 年
銑　鐵	2,547·9	1,629·3	1,406·7	2,157·2	2,363·3	2,559·2	2,732·5	2,770·1	2,907·3
塊鋼及鑄鋼	1,326·0	1,394·0	1,201·2	1,886·9	2,086·2	2,243·7	2,470·5	2.567·1	2,703·4
輸出數量	獨逸輸出數量に算入	白耳義輸出數量に算入							

獨逸　當國の鐵鋼業はベルサイユ條約の結果著しき變化を見るに至り、1913 年獨逸關稅聯盟の總

生産額はルクセンブルヒを合せ、銑鐵 19,300,000 瓲、塊鋼 18,900,000 瓲なりしが、前記條約によりルクセンブルヒが獨逸關稅聯盟より脫退し、ザールは 15 箇年間佛國管理の下に置かれ、アルサス、ローレン及上部シレシアも亦獨逸の支配を離るゝに至りたる爲、獨逸の產鋼量は著しく縮減せられ鐵鑛約 80 %、銑鐵 42 %、粗鋼 37 %、ロール生產品 34 %を喪失せるのみならず、同時に Rhenish Westphalian 鑛業中心地並ローレン、ルクセンブルヒ、シレシア等に對する商業上の聯絡をも隔絕せらるゝに至れり。されば 1913 年に於ける同國鐵鑛の產額（ルクセンブルヒを含む）35,000,900 瓲なりしが、1928 年には減じて 6,300,000 瓲となれり。

戰後獨逸は戰時中に極度に擴張したる斯業の跡始末を附くるの必要に迫まられ、主として軍需品製造の目的を以て建設したる工場等は之を解體したり。

1920—23 年に於ける通貨膨脹時代には石炭及コークス供給缺乏の爲、斯業は其作業上著しき支障を生じたるが、通貨安定と共に更に他の難局に逢遇するに至れり。卽ちルール占領中鐵鋼の强制引渡の爲其信用は極度に沽渴し、課稅の仕拂亦重大なる負擔となり、市場は不統制を極むるに至る等、通貨安定が斯業に及ぼしたる惡影響は相當重大なるものありたり。

ドース案決定前獨逸は鎔鑛爐及鋼鐵工場に對し二交代制度を復活すると同時に、從業者賃銀低下の受諾を得て斯業の復興に指を染めたるが、1924 年獨逸がルール地方產業統制を放棄し、自國經濟の統制に着手するに及び玆に始めて斯業復興の曙光を認むるに至れり。

以上の如く獨逸の斯業は通貨膨脹通貨安定の兩時期に於て其受けし惡影響は相當重大なるものあるが一方斯業の改造復興に際し、其最新式機械設備の充實が通貨膨脹に負ふ所亦大なるものあり、此好影響の結果として各地工場の設備は著しき進境を示しつゝあり。

戰前及戰後の生產額比較次の如し。（單位 1,000 瓲）

	1913年(イ)	1922 年	1923 年	1924 年	1925 年	1926 年	1927 年	1928 年	1929 年
銑　　鐵	16,761·3	9,395·7	4,936·3	7,812·2	10,176·7	9,643·5	13,102·5	11,804·3	13,106·9
塊鋼及鑄鋼	17,598·8	11,714·3	6,305·3	9,835·3	12,194·5	12,341·6	16,310·7	14,517·1	16,253·4
輸出數量	6·300·9(ロ)	2.556·2	1,327·6	1,558·5	3,262·5	4,900·6	4,322·6	4,719·4	5,575·5

備考　(イ)はルクセンブルヒを含む、(ロ)は戰前の領土。

チエコ、スロバキア　當國に於ける鐵鋼業は其肇國以來顯著なる發表を示しつゝあり、次の如し。（單位 1,000 瓲）

	1913 年	1922 年	1923 年	1924 年	1925 年	1926 年	1927 年	1928 年	1929 年
銑　　鐵	—	334·8	817·1	983·0	1,165·6	1,088·0	1,320·4	1,569·3	1,642·8
塊鋼及鑄鋼	—	650·0	1,000·0	1,220·0	1,500·0	1,575·0	1,689·0	1,732·0	2,145·5
輸出數量	—	—	—	—	—	421·0	658·2	666·2	—

(2)歐洲各國に於ける斯業勞働狀態　失業狀況は各國一樣ならず、佛國の如きは全然失業の形迹を認めざりしのみならず、却て勞働不足を感じつゝあるの狀態にして、波蘭伊國及白耳義等より輸入せる勞働者の數は其他の鑛業を通じて約 20 萬人に達し、其斯業全勞働者數に對する割合は平均 6 割に及ぶと云へり。

白耳義も亦失業者殆どなく、鎔鑛爐、スチール、メルチング工場及ローリングに於ては相當多數の外國不熟練職工を使用しつゝあるが、其從業者の大多數は自國人なり。

ルクセンブルヒに於ても全く失業者を認めず、外國從業者の自國人に對する割合は前者 4 後者 6 の比率を示しつゝあり。

獨逸は各產業を通じ約 300萬の失業者あり斯業に於ける其割合は 14·1% に當り、短時間作業をなしつゝあるもの 16·1% あり。是れ世界市場に於ける各生產國競爭特に佛、白及ルクセンブルヒの競爭激烈なるに由ると稱せらる、事情斯の如きを以て、同國斯業に於ては全く外國勞働者の影を認めず。

チエコ、スロバキアの斯業に於ては失業者あるも、僅に從業者全體 28,000 に對して其 5 %卽ち 600 人に止まる。外國勞働者輸入は政府の許可を要することゝなり居れるが、實際に於ては外國勞働者の現在するものなしとのことなり。

勞働及從業時間　勞銀仕拂の方法に就ては各國一樣ならざるのみならず、一國內に於ても其方法多岐に亘れるが、各方面の材料を基として之を表示すれば次の如し。

國別	普通從業時間 1 週間の賃銀 熟練工 賃銀	熟練工 英貨換算	準熟練工 賃銀	準熟練工 英貨換算	不熟練工 賃銀	不熟練工 英貨換算	英貨換算率	
	法	志片	法	志片	法	志片		
佛國	320	51·6	250	403	200	322	1磅に付	124法21
白耳義	470	53·9	340	38·10	270	30·10	同	175法
ルクセンブルヒ	430	49·2	340	38·10	280	32·0	同	同
獨逸	マーク 70	68·6	マーク 54	52·10	マーク 48	47·0	同	20馬克43
チエコ、スロバキア	クロネン 480	58·5	クロネン 270	32·12	クロネン 190	23·2	同	164クロネン25

勞働時間に關しては、佛國は法律を以て規定せられ、1日8時間1週48時間とし、工程の性質上作業繼續の必要ある場合は、56 時間迄延長することを得べし。勞働時間の割當法としては（イ）1週每日（日曜日を除き）の就業時間を8時間以內に於て一定すること、（ロ）各日の就業時間に長短の差を設け、假令は土曜日午後を休業し、其時間を他の曜日に振當つること（但し1日最長勞働時間9時間を超ゆることを得ず）の一を選ぶことを得べし、尙緊急公益其他の事情により、右規定時間以上勞働時間の延長を必要とすべき事情あるときは、雇主は1箇年を通じ 100 時間以內の限度に於て其從業時間を延長することを得べし、但し勞働監督官に屆出づることを要す。此外にも地方休暇日に於ける休業の補充として1箇年 40 時間の例外を認め居れり。

白耳義に於ても勞働時間は一般的に規定しあり、1 日8時間1週 48 時間を超ゆることを得ざるも鐵鋼業特種の事情に應じ (1) 工程の性質上作業繼續の必要ある場合、(2) 作業が後の交代者により續行せらるべき場合には、1 週平均 56 時間迄延長することを得べし，尙休暇補充として1箇年尠くとも 26 日の例外を認め居れり。

ルクセンブルヒに於ける勞働時間は法律により 48 時間制を採用し、1 日8時間を超ゆることを得ずと定められ、又別個の法律を以て日曜就業を禁止せるが、同時に又例外をも認め居れり。尙日曜就業

禁止に付ても、工程性質上作業繼續の必要ある場合、即ち鎔鑛爐作業の如きは之が例外を認めらる。但し其代休として他の曜日に休暇を與ふることを要す。

獨逸に於ても 48 時間勞働制を採用せるが雇主及勞働者間の合意契約を以て、1 日 10 時間迄之れを延長することを認め居れるが、鐵鋼業に關しては 1 日 8 時間以上の勞働契約に制限を設け、コークス爐及鎔鑛爐從業時間は 8 時間乃至 8 時間半以上に亘ることを許さず。此制限は尙製鋼工場、ローリングミル等にも適用せられる。されど其他の鐵鋼作業に關しては之が適用なく、從て 1 週 6 日 57 時間作業を普通とするの狀態にして、此等勞働者にして工程の性質上繼續作業を必要とするものにありては日曜は平日通り就業し、2 回の日曜日を 10 時間交代とし、第 3 回目の日曜を休日とすることゝなし居れり。

國別	作業別	普通就業時	普通終業時	平均1週普通從業時間
佛國	鎔鑛爐	1 週 7 日間 8 時間交代		56
	メルチング工場	日曜午後 7 時	日曜午前 6 時	51⅔
	(ベツセマ、コンバーター及オーブン、ハース)	月曜午前 3 時	日曜午前 6 時	48⅔
	ローリング、ミル	月曜午前 6 時	日曜午前 6 時	48
白耳義	鎔鑛爐	1 週 7 日間 8 時間交代		56
	電氣爐、ベツセマ、コンバーター及オーブン、ハース、メンチング工場	日曜午後 6 時	日曜午前 6 時	52
	ローリング、ミル	月曜午前 6 時	日曜午前 6 時	48
ルクセンブルヒ	鎔鑛爐	1 週 7 日間 8 時間交代		56
	スチール、メルチング工場ベツセマコンバーター及オープンハース	日曜午前零時	日曜午前 6 時	50
	ブルーミング、ミル	月曜午前 2 時	日曜午前 6 時	49½
	ローリング、ミル	月曜午前 6 時	日曜午前 6 時	48
獨逸	鎔鑛爐	1 週 7 日間 8 時間交代		56
	トマス、ベツセマ、コンバーター	日曜午後 6 時	日曜午前 6 時	52
	シーメンス、オープン、ハース	同 午後 7 時	同 同	51⅔
	同	同 午後 6 時	同 同	52
	メルチング工場準備職工	同 午後 2 時	同 同	53⅓
	同 同	日曜午後 5 時	日曜午前 6 時	52½
	チルチング、ファーネス	同 午後 6 時	同 同	52
		(事業の狀況に應じ 8 時間交代制として 1 週 7 日間作業することを得)		
	メルチング工場準備職工	日曜午後 2 時	日曜午前 6 時	53⅓
	ローリング、ミル	月曜午前 6 時	同 同	48
チエコ、スロバキア	鎔鑛爐	1 週 7 日間 8 時間交代		56
	スチール、メルチング工場	不同 土曜午後 1 時又は 2 時		48
	ローリング、ミル	不同 同 午後 1 時又は 2 時		48

チエコスロバキアも法律を以て 8 時間勞働を規定し、24 時間毎に 8 時間以上の勞働を許さざるを原則とするも、1 週間を通じ 48 時間以內なれば可なりとし、以上と異なりたる從業時間を設くる場合、例へば工程の性質上作業繼續の必要ある場合其他の際には社會大臣の許可を受くべきものなるが、少くとも 1 週間中に 1 回32時間の休息時間を設くべきものとす。されど現に行はれつゝある 3 交代制の場合には、各組共順次に 3 週間目毎に 1 回全休息をなし、他の 2 組は以上休息期間に 16 時間交代にて就業することゝなり、之が爲規定の 48 時間勞働は 56 時間に增加すべきを以て、此場合には尙他の 1 組を編成し、各組をして全休息期間を享受せしむるを要す

る旨、社會福利大臣より一般に公告せられたり。勿論當國に於ても緊急乃至公益等の爲には例外として殘業を認め居れり。夜業は午後 10 時より翌朝 5 時までの勞働を指稱し、工程の性質上繼續作業を必要とするものに限り之を許可す。

各國に於ける斯業の就業時間を表示すれば前掲の如し。

以上の外職工組合の組職職工及其家族の福利增進の施設等に關し記述したる後、以上各國に於ける其機械設備乃至作業能率竝經營狀態を英國と比較すれば、兩者は略ぼ伯仲の間に在るも間〻英國が寧ろ夫等諸國に比し幾分優越なる狀態に在るを認むと結論せり。(海外經濟事情 3、33)

上海に於ける 5 月中の石炭市況（昭和 5 年 7 月 16 日附在上海横竹商務參事官報告）上海港の 5 月中石炭輸入は 324,300 噸にして、昨年同期に比し 300 噸を減少し、就中邦炭は 71,700 噸と昨年同期に較べ 700 噸の減少を示せり。而して最近上海の石炭輸入狀態は日本石炭は北海道炭の引合弗々あるに、支那商間には日本內地炭況の不味なるを見越して當用買の外は見送られ、又山西、山東、中興諸炭は時局の爲出廻漸減、撫順炭亦爲替關係にて入荷減少、上海市場は此處の處開平炭獨り舞臺の觀あり。5 月中各炭輸入統計次の如し

上海港 5 月中石炭輸入統計（單位噸）

炭名	5月中 1929年	5月中 1930年	昨年1月以降累計	本年同期累計
三池炭	25,000	26,000	121,2.0	118,000
筑豐炭	19,800	24,300	154,000	114,900
肥前炭	24,400	21,400	149,800	119,500
北海道炭	3,200	—	13,100	7,400
日本雜炭	—	—	—	6.400
日本炭計	71,400	71,700	438,100	366,200
撫順炭	70,200	88,100	282,600	370,600
山東炭	38,300	11,000	175,200	56,900
開平炭	113,400	101,800	461,600	537,200

炭名	5月中 1929年	5月中 1930年	昨年1月以降累計	本年同期累計
北票炭	2,000	—	5,500	—
山西炭	—	6,400	—	15,300
支那雜炭	—	—	—	3,500
海防無煙	15,100	9,200	110,300	40,100
柳江其他支那無煙	12,200	32,400	48,200	131.950
雜コークス	900	3,700	6,700	18,260
計	324,500	324,300	1,528,200	1,540,010

5 月末現在上海港の貯炭高は爲替不安定に據る實需筋の見送に昨年に比すれば 83,300 噸の減少を示したが、前月に比し 26,300 噸の增加を示した。卽ち次の通り。

5 月末現在上海港貯炭高統計（單位噸）

炭名	日本炭	撫順炭	山東炭	開平炭	北票炭	山西炭	支那雜炭	海防無煙	支那無煙	雜炭	コークス	計
1929年	176,800	55,300	74,400	99,800	2,100	—	14,000	32,100	14.200	1,000	3,000	472,700
1930年	129.900	51,200	10,900	73,300	1,700	4,900	14,300	14,200	80,500	6,700	1,800	389,400

最近上海の石炭市況は絹絲紡績方面の 1 釜當 3 匁見當と昨年より 1 匁 1 分高竝に最近開平炭の各炭を通じ 3、4 匁の値上も爲替高の爲邦炭には一向刺戟ともならず、夏枯期でもあり荷動頗る澁滯、相場としては崎戸洗粉 11 兩 5 匁、三池粉 11 兩、撫順粉 10 兩 5 匁、同塊炭 13 兩 5 匁、高尾塊 11 兩を唱へ閑散。

卽ち日本炭は崎戸炭の如く絹絲紡績方面に於て使ひ馴れ居る關係上割高をも忍んで購入せらるゝものは例外として、一般炭況を目下の爲替にて採算すれば尙 1 圓 5、70 錢の開あり、試みに開平二號

粉を標準として同規格邦炭の上海沖渡値段を算出せんに、現在開平二號粉炭相場 7 兩 6 匁5分を當地棧橋渡邦炭値段とするなれば、棧橋に陸揚する迄に輸入稅、棧橋に陸揚費用(1925 年 9 月以降 6 匁に値上されたるも、最近 4 匁 5 分に引下られ即ち 1925 年 9 月以前の夫に改正された)及船內人足賃合計 1 兩 5 匁 5 分を差引けば 6 兩 1 匁となり、之を現在の爲替 135 兩を以て邦貨に換算せば 4 圓 50 錢となる譯なるが、今同規格炭を當地に輸入せんとせば沖渡 6 圓 3.5 錢となり其間頓當如上の値開を生じ邦炭の輸入は玆許困難とされ居れり。

斯く邦炭との開き大なるを看取したる開平炭は秦皇島の貯炭相當數量に上り居るにも拘らず、當地同炭値上の牽制策として積出を減少したる爲、當地の貯炭は 6 月末現在 7 萬 7、8,000 噸に減退、同時に之を口實として一號粉炭 8 兩 6 匁 5 分(3 匁 5 分引上)、二號粉炭 7 兩 6 匁 5 分 2 匁5分引上)、特別粉 8 兩 6 匁 5 分(3 匁 5 分引上)、洗粉 9 兩 3 匁 5 分 (4 匁引上)、塊炭一號 9 兩 5 匁同二號 8 兩 5 匁に引上たるが、時局の爲支那炭の出廻減退の折柄邦炭は爲替高の爲輸入困難であ.り、全く獨舞臺の觀ありて商盛を極め居るものゝ如し。(7 月 15 日上谷通信生調査) (海外經濟事情 3, 33)

世界金產出量 (昭和 5 年 7 月 2 日附在サンフランスコ若杉總領事報告) 過去 2 年間普通人も鑛山業者、銀行業者も共に金狀況に多大の注意を拂つて來た。世界の多くの國が金貨本位に轉換して以來、金が世界經濟上に占むる地位は益ゝ重要性を帶ぶるに至りたるを以て、將來に於ける世界の金供給問題は廣く論議さるゝに至つた。

新金產地を立證する爲アメリカン・スメルテイング・エンド・リフアイニング・カンパニーのエツチ・エ・カーセルが述べた所見は此種論議中最興味多く、且又最悲觀的のものである。1935 年と 1940 年との間に於て銀行及貨幣用金供給高は 500 萬オンズを越へざるべしとは氏の所信である。

月の The Engineering and Mining Journal に氏は次の如く述べて居る。

オーストラリア、中央亞細亞に於ける砂漠地帶及スダン附近竝アマゾン及オリノコ兩河上流の熱帶等は土人の敵對と氣候との爲殆ど接近するを得ざるが、是等地方を除けば地球上金搜索者の足跡至らざる所はない、長期間金產出高は年 600 萬オンスを保ち,現今は其約半に減じ居ることを回顧するときは、以上の如き金搜索には大なる金鑛山發見の機會は一般に想像するよりも少しとの結論に當然達するのである。經濟學者及其他研究者は 18 世期にはカリフオルニア, オーストラリア、ジ・ランド (the Rand) コロンダイク、レナ等續々と金鑛が發見されたからして、此發見は永久に繼續するが如く結論する傾向があるが、是等の人々でさへも前記同樣の結論に達するのであらう。重要なる金鑛が發見さるゝかも知れないと言ひ得ざるにあらざるも、事實然らざることは鑛山技師の知る所である。

カーセルは 1935 年に至る玆々 4、5 年間に於ける世界の金產出量は 2,000 萬オンス程度に止まるならんが、其以後は漸次減少を始め 1940 年迄の產出量は 5,500 萬オンスを示すならんとの意見である。

近年は世界金產出量の半以上は貨幣に鑄造されて居るに拘らず、金は貯藏により又は美術品に利用せられて消失するを以て、貨幣及銀行用に充當し得る量は世界年產出量の約半を越へざるべしとは一般の推定である。工業用消費量は減少の見込なく、却て其需要量は增加の傾向がある。而して工業用金の需要は第一に供給せらるゝからして、世界の金產出量が減少すれば、等しく銀行及貨幣用に充當し得る金の量は減少するとカーセルは述べて居る。米國は 1929 年は金產出量に於て世界第二位にあるが、1915 年には最高量 4,823,672 オンスを產出したが、爾來產出量甚しく減じ、1929 年には 2,128,027 オンスを示すに至つた。今後產出量增加の見込なきを以て、近き將來加奈陀が第二位の金產出國とならん。(7 月 2 日サンフランシスコ・クロニグル紙)(海外經濟事情 3、34)

バタヴィアに於ける琺瑯鐵器需給狀況（昭和 5 年 7 月 10 日附在バタヴィア小谷總領事代理報告）バタヴィア方面に輸入せらるゝエナメル鐵器は主に日本エナメル鐵器株式會社、伊東琺瑯鐵器株式會社、富士琺瑯鐵器株式會社、關西琺瑯鐵器株式會社等の製品にして、其主なる種類は洗面器、重辨當入、茶瓶　皿、鍋類、手付コツプ等なり。歐洲方面は獨逸、和蘭等より同樣茶瓶、洗面器、皿手洗鉢、其他テーブル用品、衞生用品等の輸入あるも、品質は一體に本邦品より高價上等品多く、特に皿洗面器等は其生地の上等なるが頗る體裁よく垢拔せる感あり、本邦品は主に支那人、土人等を顧客とする關係上、安物輸入あり、甚しきは一度懸粗製品にして、一度落せば直に其生地を現す如き製品すら輸入され、甚だ本品の聲價を失墜せしむるものあり。

是等は主に當領支那商の輸入するものにして、通常同一の本邦品にして、將來相當賣行あるべき商品の邦商により輸入せられたりとせんか、彼等は常に一見同品と同樣の體裁を有するサイズ足らず或は其製造行程に於て、無理に手を拔きたるものを神戸、大阪の支那人買付商をして註文せしめ、之を當領に於て格安に賣捌くを以て、安物に於ても眞面目なる邦商其他取扱商は到底其競爭に堪へざるに至り、以上の取扱を中止するか、同樣粗製品を註文せざるべからざるに至るものなり。以上の如きは製造家の賣急にも其因を胚胎し、此爲取扱商に於ても、賣れる時に賣れば事足るが如き目前の小利に沒頭し、不自然なる競爭をなして迄も賣放たんとする如き傾向を招來し、一時的には相當數量の輸入を見る事あるも、其永續性無きや言を待たず、折角の商品を價値なきものにするが如きことすらあり、從て以上に就ては取扱商或は註文人の自覺を望まんとするは勿論なるも、邦商のみならざるを以て、其統制は到底不可能にして、要は製造家に於て己の信用を害する如き商品の註文に應ぜざる斷乎たる決心を望まんとする次第なり。

支那人買付商は不景氣と製造家の拔馳的心理を利用し、巧に以上の如き擧に出づるものゝ如く、製造家自身確固たる自信なき限り本件の如きは到底全きを得るを得ず、昨今當方面に於ける本品は市場は其沈滯甚しく其取扱を喜ばざるのみならず、本品輸入に就て進んで輸入せんとするものなく、徒に市價の回復を待つて放任の形を呈せる次第なり。

斯の如き結果を招來せる責任は若干取扱商に歸すべきものありと雖、其一半は製造家に於ても負は

ざるべからざるは勿論なり。

尙當業者の談に依れば本品中皿物、洗面器等は蕉らずとも優に市場をリードし得るものなるに拘らず、以上の如き奸商と製造家の無自覺に依り市場を崩壞せしは殘念なりとのことなり。

而して目下は靑票物と赤票物とあり、後者に對してすら一度懸粗製品は約1割5分見當の安値を保ちつゝあり、赤票物の在市場數量は不明なるも、支那人取扱商の分をも考慮すれば、尙可成り相當の額に達する模樣なり。斯の如き粗製品を市場より驅逐して後始めて健全なる發展を望み得ることなれば、上記の如く要は製造家の自覺に待つべきものなる爲、當業者組合、聯合會等に於ても一層其檢査を嚴重にし　眞面目なる取扱商をして安心して其販賣に努力せしむる樣希望する次第なり。

昨年中瓜哇に輸入されたる本品明細示表の如し。

品種＼名國	和蘭	英國	獨逸	白國及ルクセンブルヒ	日本	支那	チエコスロバキア	計	1928年計
鍋類	20,358打	427打	18,297打	6,913打	389打	—	—	46,904打	73,863打
	322,634kg	3,158kg	249,714kg	87,477kg	3,261kg	—	—	666,571kg	1,003,681kg
	175,660盾	1,759盾	111,604盾	37,468盾	1,470盾	—	—	328,105盾	269,794盾
辨當箱	192打	—	872打	—	30,103打	121打	—	31,288打	22,299打
	7,591kg	—	28,166kg	—	671,633kg	2,568kg	—	709,958kg	330,333kg
	4,719盾	—	19,039盾	—	392,628盾	1,687盾	—	419,073盾	304,673盾
洗面器	1,625打	—	886打	—	280,246打	361打	—	283,163打	267,272打
	13,835kg	—	8,387kg	—	1,459,833kg	2,696kg	—	1,486,386kg	1,283,779kg
	7,277盾	—	4,374盾	—	666,945盾	1,447盾	—	680,891盾	597,254盾
茶瓶	2,684打	—	2,990打	745打	33,852打	—	—	40,278打	43,886打
	44,411kg	—	44,460kg	10,706kg	460,081kg	—	—	559,799kg	609,741kg
	30,766盾	—	26,346盾	6,136盾	242,328盾	—	—	305,702盾	348,095盾
皿、手洗鉢匙其他食卓用品	112,699kg	—	461,328kg	4,311kg	1,477,500kg	2,357	11,863	2,073,468kg	1,969,019kg
	97,097盾	—	290,738盾	1,506kg	626,472盾	1,664	6,872	1,026,738盾	982,847盾
衞生用品其他	35,431kg	4,903kg	149,905kg	—	9,959kg	—	—	200,972kg	209,692kg
	21,589盾	3,340盾	88,202盾	—	4,118盾	—	—	117,820盾	110,038盾

以上總計の輸入港別數量は次の如し。

バタヴィア		スラバヤ		スマラス		チエリボン	
2,825,920kg	1,406,052盾	2,024,046kg	1,020,847盾	596,365kg	319,266盾	248,639kg	130,899盾

重要生産月報拔萃（昭和5年7月商工大臣官房統計課）（Tは佛噸）

	7月中	前月	前年同月	1月以降累計 5年	1月以降累計 前年
金	1,008,230gr	912,652gr	758,473gr	6,153,370gr	5,349,125gr
銀	14,554,027gr	12,431,314gr	11,880,404gr	87,331,522gr	85,458,071gr
銅	6,388,638kg	6,481,934kg	6,422,022kg	44,071,934kg	42,787,305kg
石炭	2,433,900T	2,433,900T	2,541,370T	17,883,049T	18,758,408T
石油(原油)	267,951瓩	262,655瓩	272,088瓩	1,726,687瓩	1,790,848瓩
セメント	295,966T	308,825T	388,247T	2,201,187T	2,562,091T
硫安	19,888T	21,344T	18,704T	140,978T	121,008T

昭和5年7月中(八幡)製鐵所銑鋼生産高表

銑鐵			鋼塊			鋼材		
當月生産高	前累比較	1月以降累計	當月生産高	前月比較	1月以降累計	當月生産高	前月比較	1月以降累計
73,972	+6,494	414,015	107,032	−11,945	817,620	83,152	− 7,904	645,510

昭和5年6月中外國銑輸入高 (銑鐵共同組合) (單位瓲)

輸入港名

輸出國	横濱	神戸	大阪	門司	名古屋	其他	計	1月以降累計
支那	7,938	2,751	—	—	—	—	—	—
印度	51	338	8,353	1,336	1,080	—	21,439	155,282
英國	—	—	—	—	—	—	389	2,970
獨逸	—	51	—	—	—	—	—	3,525
米國	—	—	—	108	—	—	159	345
瑞典	—	—	—	—	—	—	—	850
白耳議	—	—	—	—	—	—	—	205
其他	—	—	—	—	—	—	—	5
計	7,989	3,140	8,353	1,444	1,081	—	22,007	163,182

備考 大藏省主税局調査の數字は單位擔なるを以て1擔0·06048瓲の割合にて換算したり

銑鐵市場在庫月報 昭和5年6月30日現在 三菱商事株式會社金屬部

市場	持主別 生産筋	問屋筋	消費筋	合計	前月比較
東京	5,883	4,290	13,137	38,230	− 1,664
横濱	14,920				
名古屋	1,369	2,345	1,000	4,714	− 2,763
大阪	9,331	14,955	47,950	72,236	− 6,472
神戸					
門司	1,099	1,287	6,236	8,622	− 881
長崎					
函館	—	—	—	—	—
室蘭	32,993	—	—	32,993	+ 4,659
釜石	26,895	—	—	26,895	+ 661
兼二浦	49,690	—	—	49,690	+ 4,880
大連	102,682	1,060	2,630	106,372	+ 16,788
其他	461	—	—	461	− 53
合計	245,325	23,987	70,953	340,213	+ 17,216
前月比較	+ 22,668	− 3,183	− 2,270	17,215	—
前月同號	113,545	23,687	94,465	+ 231,697	+ 108,516

銑鐵市場在庫品種別

品種	京濱	名古屋	阪神	九洲	滿鮮	北海道	其他	合計	前月比較
兼二浦	4,960	1,360	15,474	492	50,268	—	110	72,664	+ 3,930
釜石	1,896	—	1,880	—	—	—	26,895	30,671	− 1
輪西	4,160	1,112	4,605	115	—	32,993	122	43,107	+ 3,540
鞍山	2,950	160	13,920	2,417	82,941	—	—	102,388	+ 16,903
本溪湖	4,594	827	862	970	22,120	—	229	29,602	+ 1,024
淺野銑	15,640	—	—	1,000	—	—	—	16,640	− 1,289
大暮	—	—	—	30	—	—	—	30	− 35
Tata	1,130	50	24,090	198	—	—	—	25,468	+ 1,013
Burn	2,645	230	4,500	2,992	433	—	—	10,800	− 6,350
Bengal	70	640	3,095	—	—	—	—	3,805	− 803
Cleveland	90	35	200	50	—	—	—	375	+ 80
Hematite	80	—	440	—	—	—	—	520	− 420
Swadish	—	—	50	—	—	—	—	50	—
Mysore	—	—	—	355	—	—	—	355	− 51
米國銑	15	—	30	—	—	—	—	45	− 56
大陸銑	—	—	—	3	—	—	—	3	− 5
雜	—	300	3,090	—	300	—	—	3,690	− 265
合計	38,230	4,714	72,236	8,622	156,062	32,993	27,356	340,213	+ 17,215
前月比較	− 1,664	− 2,763	− 6,472	− 821	+ 23,668	4,659	+ 608	+ 17,215	—

主要製鐵所に於ける鐵鋼材生産高調 （單位瓲） 商工省鑛山局

備考 △印は減を示す。

種別	6月分			1月以降の累計		
	昭和5年	昭和4年	比較增減	昭和5年	昭和4年	比較增減
銑鐵	137,354	127,394	9,960 8%	802,273	757,706	44,567 6%
普通鋼	206,475	183,955	22,520 12%	1,214,560	1,120,120	94,440 8%
販賣向壓延鋼片	4,470	10,101	△ 5,631 56%	35,818	54,426	△ 18,608 34%
販賣向シートバー	313	393	△ 80 20%	915	2,672	△ 1,757 66%
普通鋼壓延鋼材	167,236	145,838	21,398 15%	992,596	928,118	64,478 7%
內譯						
厚0·7mm以下鋼板	19,678	16,234	3,444 21%	117,746	91,342	26,404 29%
其の他鋼板	33,771	29,612	4,159 14%	197,627	165,960	31,667 19%
棒鋼	43,999	44,658	△ 659 1%	255,351	317,605	△ 62,254 20%
形鋼	19,240	16,894	2,346 14%	134,982	128,400	6,582 5%
軌條	30,414	24,319	6,095 25%	167,744	140,970	26,774 19%
線材	10,523	5,371	5,152 96%	58,992	32,891	26,101 79%
鋼管	7,768	6,664	1,104 17%	47,883	35,743	12,140 34%
其の他	1,843	2,086	△ 243 12%	12,271	15,207	△ 2,936 19%

粗鋼カルテル一部解除 （昭和5年9月10日商工省貿易局）國際粗鋼カルテル輸出中央機關は、國際經濟界不振に伴ふ加盟關係筋の賣崩しに依り、其の基礎の動搖を來し遂に趨勢に反抗し難く、先に丸鐵、帶鐵、厚板の相場を開放し、更に白耳義側の要求を容れ數量制限を撤去し、遂に8月末半製品及ビームの相場の開放を決定せり。獨逸側は加盟關係國筋のカルテル違背を憤ると共に自國市況の惡化を惧れつゝあり。斯業各國關係筋は事態を其の國々に放任し難きを知り、リエージュに於て9月12日に幹事會を開き販賣機能の改造に依り販賣統制を計らんとす。因に國內の販賣はStahalverbandに依り依然統制さる。（東京着昭和五年九月九日在伯林富井代理大使來電）